

検討事項

- 第4次報告書のフォローアップについて、IPv6の普及促進について
(意見) ・ 法人の情報システムのIPv6対応状況について、
Sierからヒアリングすべきではないか。

- IPv6の利用促進について、今後の取組の新たな目標設定について
(意見) ・ IPv4、IPv6の過渡期だけでなく長期的に考えていくべきではないか。
その中で、まずはIPv6のトラフィックの増加に向けて検討が必要ではないか。
 - ・ IPv6への移行の背景として、IPv4を使うためのコスト（1アドレスあたりの価格）が上昇していることに触れてもよいのではないか。
 - ・ IPv6対応のケーススタディが共有されていくべきではないか。
 - ・ より安心・安全な世界へ向けて、IPv6を利用することが考えられないか。

- 今回の研究会のとりまとめの位置付けについて
(意見) ・ 報告書において、MNOのIPv6化、ケーブルのIPv6化など今後のモデルとなるような成果を大きく取り扱うべきではないか。

第35回研究会の議論のまとめ

検討事項

- 第4次報告書のフォローアップについて、IPv6の普及促進について
(意見) インフラのIPv6化のミッシング・ピースとして、
 - ・ 公衆Wi-FiのIPv6対応状況について、フォローすべきではないか。
 - ・ MVNOのIPv6対応状況について、フォローすべきではないか。

- IPv6の利用促進について、今後の取組の新たな目標設定について
(意見) ・ 次のターゲットをどうすべきか。
 - ・ ユーザエンドに関するIPv6化を議論する場合、
どういう場やメンバーで議論することが適当であるか。

- 今回の研究会のとりまとめの位置付けについて
(意見) ・ プロGRESSレポートとすべきか、第5次報告書とすべきか、最終報告書とすべきか。
 - ・ 最終報告書とする場合、本研究会の位置づけをどうするか。
 - ・ 報告書において、IPv6における我が国の国際的な貢献を含めるべきではないか。
 - ・ 報告書において、大部分のインフラのIPv6化が完了したというメッセージを含めることは有益ではないか。
 - ・ 報告書において、大局的な人材育成について触れるべきではないか。

(参考)スケジュール案

これまでの検討経過

平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)
▲研究会 発足 (2月)	▲中間 報告書 公表 (6月)	▲第2次 報告書 公表 (3月)	▲第3次 報告書 公表 (12月)	▲第1次 プログ レポー ト 公表 (7月)	▲第2次 プログ レポー ト 公表 (7月)		▲第4次 報告書 公表 (1月)	▲進捗 状況の 公表 (3月)	

今後の検討スケジュール案

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		▲ 第35回 (10/16)	▲ 第36回 (11/13)	▲ 第37回 (12/12)	▲ 第38回 (1/12)	▲ 第39回 (2/6)	▲ 第40回 (3/20)
<ul style="list-style-type: none"> ○研究会の進め方案 ○国内外のIPv6対応状況 (更新) ○第4次報告書のフォローアップ <ul style="list-style-type: none"> (1) 事業等分野横断毎のIPv6対応に向けた取組状況 (2) 分野横断的課題に関する進展 		<ul style="list-style-type: none"> ○第4次報告書のフォローアップ <ul style="list-style-type: none"> (1) 事業等分野横断毎のIPv6対応に向けた取組状況 (2) 分野横断的課題に関する進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○第4次報告書のフォローアップ <ul style="list-style-type: none"> (1) 事業等分野横断毎のIPv6対応に向けた取組状況 (2) 分野横断的課題に関する進展 		<ul style="list-style-type: none"> ○論点整理 ○プログレスレポート骨子 ○報告書骨子 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログレスレポート案 ○報告書案 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログレスレポート ○報告書